平成１９年6月１２日

（ご参考）

― 大規模地震発生時の被害最小化をめざして ―

「早期地震警報システム」を導入します

京阪電気鉄道株式会社（本社：大阪市中央区、社長：佐藤茂雄）では、大規模地震発生時の被害を最小限に抑えるため、平成１９年６月１６日（土）から、「早期地震警報システム」を導入します。

当社では、このシステムを京阪線の運転指令所に設置。同所で気象庁から発信される緊急地震速報（※）を受信し、当社線への影響を瞬時に判定します。そして、影響ありと判定した場合、列車無線を使用して音声メッセージ等を全列車に自動的に通報。通報を受けた運転士は、原則として速やかに列車を停止させ、被害の最小化を図ります。なお、当社線への影響の判定基準となる被害推定には、（財）鉄道総合技術研究所で開発された被害予測モデルを使用します。

従来より当社では、京阪線沿線５カ所、大津線沿線２カ所に地震計を設置し、地震発生時には、それらの地震計が指示する値の大きさに従い、列車の運転停止や鉄道施設の巡回点検など、安全確保のための取扱いをきめ細かく定めて運用しています。今般、当社線全線において「早期地震警報システム」を導入することで、地震対策をさらに強化するものであります。

「早期地震警報システム」の概要は下記のとおりです。

（※震源の近くで検知した最初の小さな揺れ（Ｐ波）から震源位置、地震の規模を推定して大きな揺れ（Ｓ波）が到達する前に地震情報を伝達するもの。気象庁が平成１８年８月から配信しています。）

記

【名　　称】　早期地震警報システム
【導　入　日】　平成１９年6月１６日（土）
【対象路線】　当社線全線（京阪線、大津線、鋼索線）

【列車への通報方法】　京阪線：京阪線の運転指令所から、列車無線を使用して音声メッセージ等を全列車に自動的に通報します。

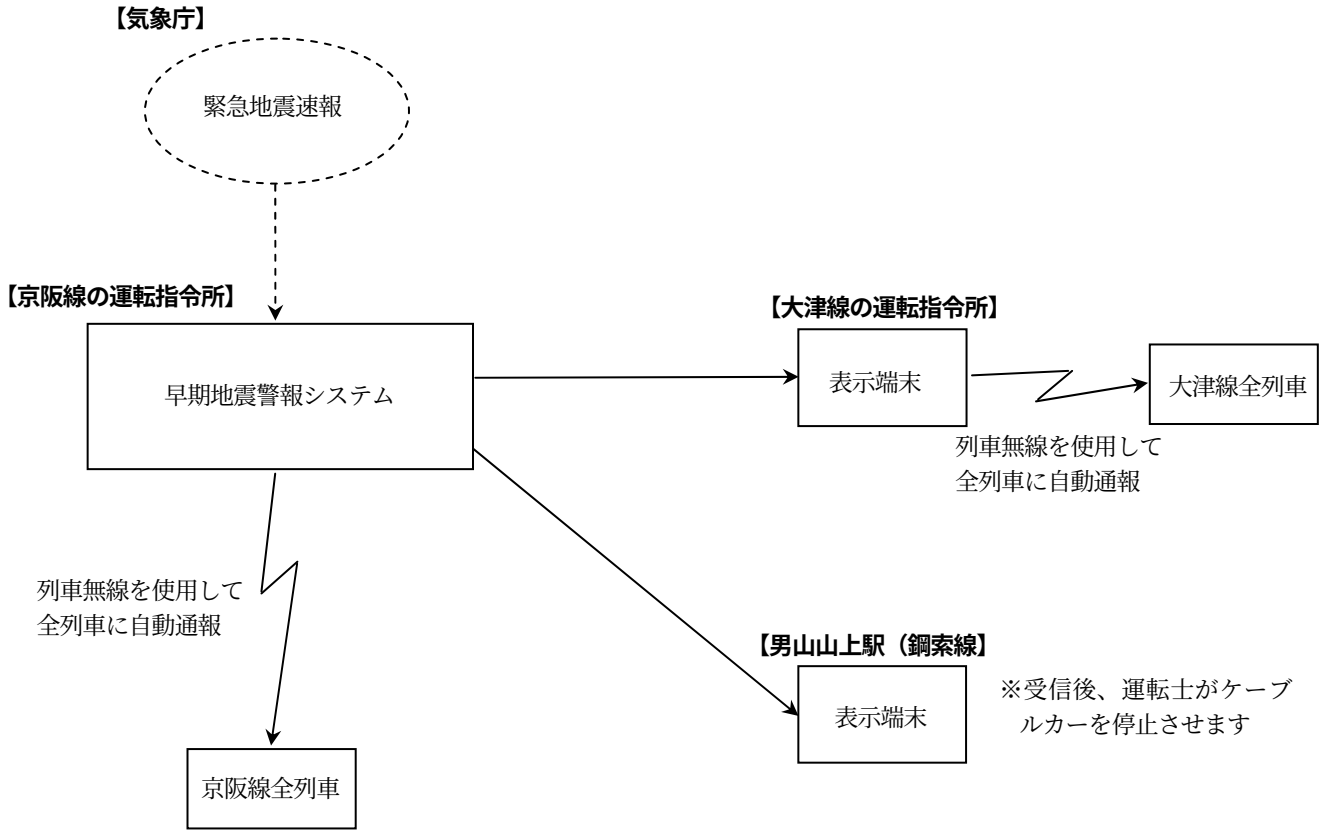
大津線：表示端末で京阪線の運転指令所から地震情報を受信した上で、大津線の運転指令所から、列車無線を使用して音声メッセージ等を全列車に自動的に通報します。

※表示端末は大津線の運転指令所に設置

鋼索線：表示端末で京阪線の運転指令所から地震情報を受信した上で、男山山上駅にいる運転士がケーブルカーを停止させます。

※表示端末は男山山上駅に設置

＜イメージ図＞



以　　上